



大阪府立豊中高等学校 能勢分校

Osaka prefectural Toyonaka high school
Nose branch

学校の特徴

”おおさかのてっぺん(北の端)”能勢町にある高校。

2018年に大阪府の学校再編整備計画によって能勢高等学校から豊
中高等学校能勢分校として再編。

「超少数制」「グローバルな探究活動」「里山留学制度」が特長。
大自然に囲まれた環境でのびのびとした高校生活が送れます。



総合学科・・・自分の興味・関心や進路希望に
応じて自ら科目を選択し授業をカスタマイズで
きる学科
大学のように一人ひとり違った、「自分の時間
割」で学習するのが大きな特徴です。
少人数で先生が細かく丁寧に授業を行ない、受
験に必要な科目などは履修生一人でも開講し、
きめ細かい指導が受けられます。

選べる4つのコース・・・2年生より4つのコース
に分かれて学びます

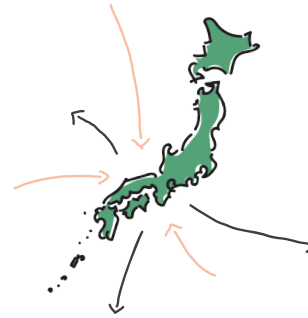
探究コース 大学進学をめざす人に	食農流通コース 農業や食の分野で活躍したい人に
対人支援コース 保育・福祉に関心のある人に	里山起業コース 地域での起業をめざす人に

THINK GLOBALLY, ACT LOCALLY

グローバル × ローカル。

地域特性を生かして世界人材を育てる。

- ユネスコスクール
- 文部科学省「地域協働推進校(グローバル型)」事業特別校
- 旧SGH(Super Global HighSchool)指定校
- 18年連続 海外からの長期留学生受入校
- 総合学科の小規模校
- 里山留学制度実施校
- SGHネットワーク参加校(文科省認定)



留学生の受け入れ、修学旅行、姉妹校提携など海外との交流を進め、
2015年から5年間はSGH指定校となりグローバルな視点での研究を
推進、2020年からは、地域協働推進校(グローバル型)事業特別校と
して地域と世界をつなぐ学びを推進。2021年からは里山留学制度を
開始し入学を希望する生徒の受け入れ体制の充実に取り組む。

2006年 海外(マレーシア)への修学旅行開始	2004年 連携型中高一貫教育校
2015年 マレーシア アスンタ高校と姉妹校提携	2010年 ユネスコスクールに認定
2020年 文部科学省「地域協働推進校(グローバル型)」事業特別校	2015-2019年 文部科学省SGH(Super Global HighSchool)指定校
	2021年 里山留学制度開始

里山留学制度

大自然あふれる能勢町内の住民の家で生活(下宿)をしながら能勢
分校に通学できる制度です。能勢町の制度として令和3年度から開
始しました。親元を離れても安心して生活することができる制度で
す。里山留学生は「農業」「環境」など能勢町ならではの産業や取組
みなど地域資源を活用した、学びをさらに深めるための体験型プロ
グラムに参加することができます。



地域協働推進校(グローバル型)とは?

自治体、高等教育機関、産業界等との協働によ
りコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等
の探究的な学びを実現する取組みを推進するこ
とで、地域振興の核としての高等学校の機能強
化を図る取組み。

ユネスコスクールとは?

ESD(持続可能な開発のための教育)の推進拠
点。地球規模の諸問題に若者が対処できるよ
うな新しい教育内容や手法の開発、発展をめざす。

詳しくはホームページを
ご覧ください



Interview



さいとう いのり
齊藤 依乃里さん

2018年度卒
立命館アジア太平洋大学 (APU)
アジア太平洋学部
2年生

Q 中学生までの子ども時代のことを教えてください

車や家の中で洋楽がよく流れていたの、英語はわからなかったけれど、洋楽が好きでした。中学生の時にはイギリスの「ワン・ダイレクション」というバンドにはまって、そこから洋楽と洋画が好きになって…英語は好きだったけど、テストも勉強も苦手でした(笑)
中学の頃からは、空手、太鼓、浄瑠璃のお囃子、華道など、したいなと思うことはやってきました。

Q この学校を選んだ理由を教えてください

友達もたくさん行くし、自然な流れで能勢高校を選びました。



Q 高校生活について教えてください

総合学科の高校なので、数学と国語プラス農業や、コンピューターや国際系のことなどを選択することができて、実際に学んでみて、自分にあってなかったり、これは違うなと思ったら、また別のことが学べたりと、いろいろな選択肢があったのはよかったです。

Q 能勢高校で学んだことを教えてください

入学してから能勢高校がSGH(※1)とか総合学科の学校って知りました。1年生の時に、先生から「海外とかに興味あるんだったらSGS(※2)に応募してみたら?」と言われて、2年生で7日間、「エビ養殖とマングローブ林破壊」、「オイルパームプランテーションと熱帯雨林の伐採」の海外実態調査にマレーシアに行きました。
高校にマレーシアの留学生が来て、京都観光に行ったり、英語に触れる機会が増えていきました。また、2年生の3学期から3年生の2学期末まで約1年間、マレーシアの姉妹校に留学し、多国籍、多宗教、多言語、多文化などマレーシアのもつ多様性について学びました。
日本人の知り合いもない状況、自分のことを自分でしないとイケない環境で、自分の意見をちゃんと言う力がつきました。

Q 進路選択の過程、進学先を決めた理由を教えてください

2年生の3学期から3年生の12月末まで留学に行っていたので、そこから気持ちが固まらないまま、受験できるところを受けるという中途半端なことはしたくなかったの、卒業後も含め、1年かけて勉強することにしました。留学や、課題探究を活用して大学に行く決めていたので、予備校には通わず、高校の図書館で勉強していました。

進学先は、留学で英語が身に付いたので、英語で学べる大学ということ、SGHで課題探究を取り組み頑張ったことを活かせる、関学(関西学院大学)社会起業学科とAPU(立命館アジア太平洋大学)に絞りました、最終的にはリベラルアーツを取り入れていて、幅広く学ぶことができ、いろいろ学んでから将来のビジョンを決めたいこと、英語で授業を受けられることからAPUを選びました。



Q 中学生に向けてアドバイスをお願いします

高校1年から大学進学は無理ってあきらめる同級生もいたけど、自分で学ぼうとしたら志望する大学にもいけると思うので、周りの意見で諦めないことを伝えたいです。



※1:SGH(スーパーグローバルハイスクール)

高等学校等におけるグローバル・リーダー育成に資する教育を通して、生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、もって、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的として実施された文部科学省の取組み、2020年度にて終了。

※2:SGS(スーパーグローバルスタディ)

SGH指定で行なわれた学習のこと。SGHを終え、さらにその成果を継承・発展させるために現在はGS(グローバルスタディ)課題探究講座として行なっている。

Interview



おおぎ いおり
大城 伊織さん

2019年度卒
関西学院大学
人間福祉学部社会起業学科
2回生

Q 中学生までの子ども時代のことを教えてください

小さい頃は、絵を書くこと、図画(工作)や美術が好きで、特に地域の風景を書く授業が好きでした。田舎の空気感が小さいときから好きで、能勢が大好き。友達と一緒に登下校も好きでした。他にも好きなことはいっぱいありました。マラソン大会を四連覇するくらい走ることも好きだったし、あげるときりがありませんね(笑)
中学校に入ってから、関心事は特になくて、勉強もしてなかった…しいて言うなら部活のソフトテニス部を3年間頑張ったかな。
小学校から好きだった「走ること」を続けたくて、陸上をやりようと思ったけどまったく知り合いがなくて、ソフトテニス部は友達が入っていたのでつられて入りました。中学校のときは周りに流されていた感じがします。

Q この学校を選んだ理由を教えてください

中学時代はほんとにこれがしたいというのがなく、人に流されていて、能勢高校に決めた理由も特にないけれど、能勢町が好きというのがありました。家から近いし、友達もいっぱい行くし、ぼくも行こうかなって感じです。



Q 高校生活について教えてください

SGH、部活(バスケ)、大学受験の3つが印象的です。
バスケットは小学校の時から週2回地域で開かれてたものに参加していて、中学校も本当はバスケットボール部に入りたかったんですけどなかったんで、高校では入りました。同期と先輩で本当に仲良くて、先輩がくる30分前に体育館には入るとかそういう堅いルールもなく先輩をちゃん付けでよんだり、アットホームな感じの部活でした。



Q 能勢高校で学んだことを教えてください

自費でフィリピン、SGHでマレーシア、モンゴルに行き、日本の環境との違いに気づきました。フィリピンではストリートチルドレンに出会うなど、社会問題に生で触れて、「今、世界ではこういうことが起きているんだ」と衝撃を受けましたね。
グローバルに触れることで、地域を見つめ、地域でどう生かすかという気持ちが芽生えました。能勢高校が重視している「グローバル×ローカル教育」の本質なんじゃないかと思います。
SGSを受講して2年生でモンゴルで貧困について研究し、3年生ではマレーシアで環境問題を勉強したんですが、中学校の時と比べて圧倒的に自分で考えるようになりました。
小・中と受け身で授業を受けていたのが、能勢高校では能動的に考え行動する学びができるようになりました。

Q 進路選択の過程、進学先を決めた理由を教えてください

姉が能勢高校から一緒にの大学に行っているんですけど、姉も留学に行って、進学したその姿を見て、ぼくも大学に行きたいなど漠然と思いました。実際に大学に進学するって決めたのは2年生の初めあたりで、教頭先生にこの大学に行きたいと言った記憶があります。

Q 今の大学を選んだ理由を教えてください

姉や先輩、教頭先生にも聞いて自分がやりたいこととマッチしてたということや、入試の方法や資格(英語検定)も含めてこの大学がベストだと思いました。
SGH公募推薦という入試方法で人間福祉学部社会起業学科に入りました。
高校3年生のマレーシアでの課題研究で、実際にマレーシアの現状や環境問題について現状を見たこと。日本に帰ってから、ビジネスの視点で環境問題を解決しようとしているサラヤという会社に出会って、工場見学や話を聞き、本も読んで、企業理念を知って、社会起業家ってすごいなと思ったことが僕の人生の分岐点です。
昔から好きなこの地域の課題を解決できないかと漠然と思って、石鹸を作ったりしたことが、今の学部につながっているのかなと思います。社会起業家として2040年に消滅すると言われてこの能勢町で僕自身なにかできないかと思っています。

Q 中学生に向けてアドバイスをお願いします

自分が得意なこと、好きなことに嘘をつかないほうがいい。他人の意見も聞く必要はあるけど、最後に決めるのは自分だし、自分に嘘をついてまで進学をあきらめるのはよくないと思っています。自分の本当にしたいこと、好きなことなんでもいのでそれができるところに行く。それが一番ベストな形かなと思います。



Interview

〈先生の声〉齊藤さん、大城さんについての先生の声も紹介します



菅原亮先生(准校長)

国内外の民間企業で勤められ、専門性を持ったグローバルな人材を育てる教育の必要性を実感。2021年に民間人校長として着任。

内田千秋先生(教頭)

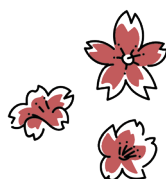
能勢高校時代から、SGHの参加など特色のある学びを導入。主体的に学ぶ場を地域や大学、外部団体とつなぐコーディネーター。

Q 内田先生が感じた 齊藤さん・大城さんの成長の瞬間

齊藤さんは大学を決める際に、「私は中途半端なことはしません」とはっきり言ったんですよ。「自分の気持ちも固まらない中で、とりあえず受けれるところを受けるみたいなことはしたくありません」と。その言葉を聞いて本当に人はこんな風になるんだなっていうのはつくづく感じましたね。—卒業後1年間学校で勉強されます—
関学を受験し、一次に合格、二次の面接の前に「APUに行ってもいいですか」と言ってきた。「APUに行き、将来はグローバルに活躍したいんです」とそうはっきり言ったんですね。「ここまで考えるようになったんだな」と思いました。私は彼女には関学の社会起業学科がいいのではという思いがあったのだけど、大人が線を引いてはダメだなと願いました。

大城さんは高校2年生の時から「(関学の)社会起業学科行きたいんです。そのためにこれからずっと1年半がんばります!」とはっきりした意思を示してきたもんですから、「ああこれはサポートしないとイケない」と思ったんです。

高校生として意見をしっかり持って、「私はこう思います」と言えることがどれだけ大事なことのかってことを私もこのふたりから学びました。



Q 菅原先生から 齊藤さん・大城さんへの質問

菅原先生

二人にお聞きしたいのだけど、つらい状況とか自分で取り組んで、うまくいかない状況もたくさんあったんじゃないかと思うんですが、そんな中でも、続けるという選択肢を選びやり続ける原動力は何だったのでしょうか?

大城さん

「続けるのは好きだから。続ける理由はそれだと思っています。今後ほくもいろいろやりたいと思いますが、核となるのは、地域をよくしたいのと、自分がやって楽しいとか好きだからやっています。だから続けられるのかと」

齊藤さん

「私は勉強不得意やったし、結構中学の同級生とか親からも(大学進学は)無理やろうと言われてることが多かったから、それでやってやろう、見返してやろうという感じで続けてたのは大きいかな。負けず嫌いというか…兄弟が年子で、兄がいて弟がいて、兄が賢かったので、比べられることが多かったからかも(笑)」



菅原先生

ちょっと先の目的とか目標がなかったとしても、経験や刺激を受けることで、人生を変えていくのだなと、二人の話から感じました。

